



令和2年度「こうふまちづくりラウンジ」報告書

「女性の意見を 地域活性化や 活動の活発化につなげる」

～ 女性の視点を活かした まちづくり ～

目 次

◇ はじめに	2
◇ こうふまちづくりラウンジのイメージ図	3
◇ 活動の記録	4
◇ 活動の様子	5
◇ 令和2年度のテーマ 1	6
◇ 提案内容 (No.1~No.6)	7
期待できること	13
◇ 令和2年度のテーマ 2	14
提案内容 (No.7~No.10)	15
期待できること	19
◇ 参加委員の感想	20
◇ 委員名簿	25

はじめに

樋口市長が政策提言された「市民の笑顔とまちの元気」、この想いをうけて私たちの「こうふまちづくりラウンジ」がスタートしました。

令和2年8月4日開催の第1回目まちづくりラウンジで、市長からの委嘱状を受けて新旧委員を交えての自己紹介、意見交換から始まり、第2回目「自由に選べる働き方」、第3回目「地域社会を女性が変える」という大きなテーマについて意見を出し合いました。

今年はコロナ対策をとりながらの話し合いでしたので、委員同士の距離を離れたことにより意見の出しづらい環境になってしまわないかと、試行錯誤でのラウンジ開催でしたが、メンバー自らの経験から出た意見、女性ならではの考え、職場における立場からの意見、そして行政へのお願い・期待など、多くの意見を聞くことができました。

ラウンジメンバー（女性10名）プラス事務局（女性3名、男性1名）の総勢14名の立場の違う、職業も違う人の話を聞けるのは、毎回楽しみであるとともに勉強となりました。そして何より市政への関心を深め、まちづくりについて「考える」という良い機会をいただきました。少ない回数でしたが、このまちづくりラウンジの中で私たちは、女性だけではなく甲府に住む市民全てが、元気で活躍できる甲府、住みよい甲府、より良い甲府になっていくように考えました。

今日、私たちメンバーが甲府市民として出した率直な意見を、この報告書にかえて提出させていただきました。ぜひ、これからの甲府市の取り組みの中に活かしていただきたいと思います。

また、私たちもこのラウンジで学んだことを忘れずに、未来創造都市甲府の実現に微力ではありますが、精一杯協力させていただきます。

令和2年3月19日

「こうふまちづくりラウンジ」
委員長 石原初江

こうふまちづくりラウンジのイメージ図

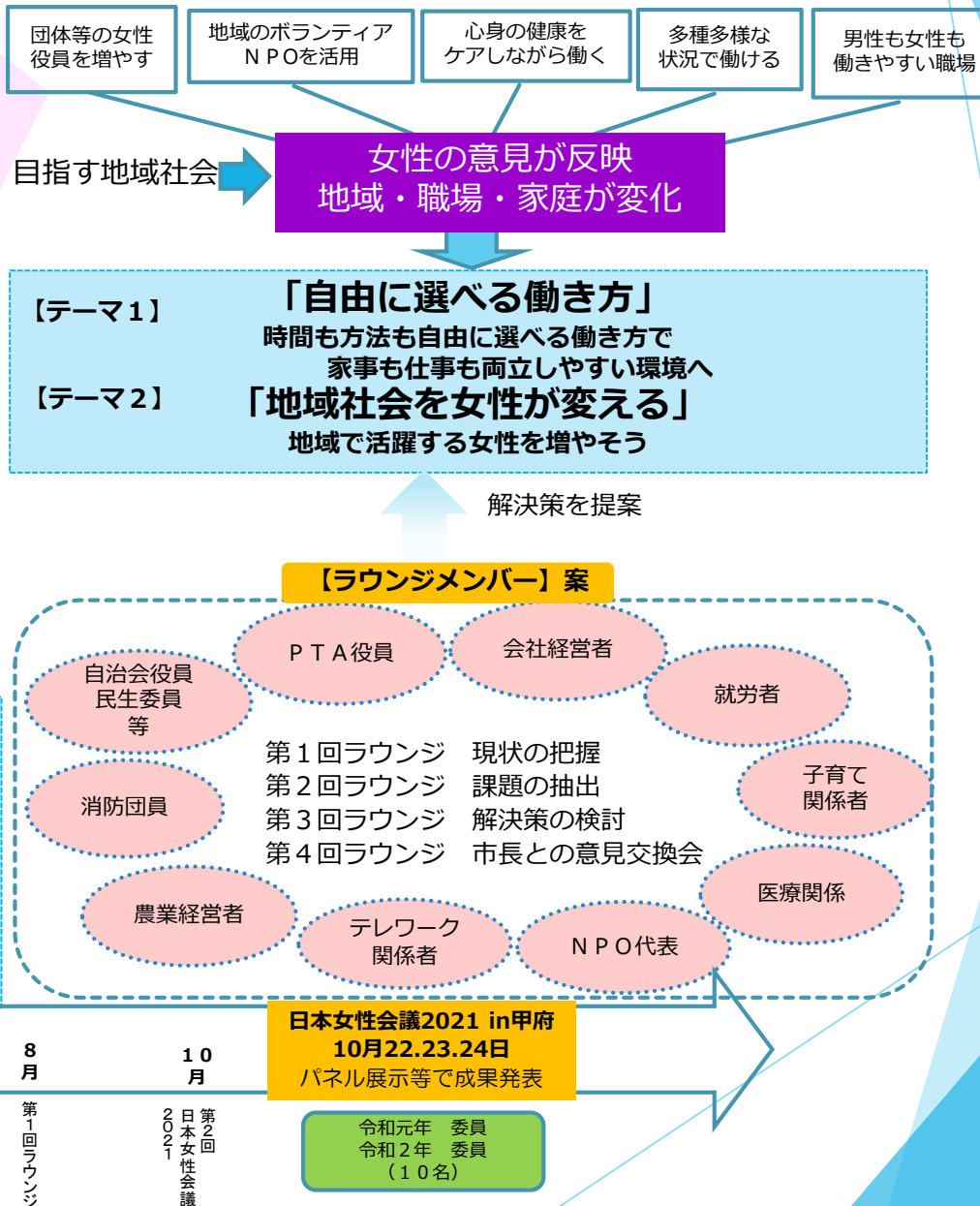
令和元年度の提案

- ① 市民等との連携によるSDGsを用いた「男女共同参画推進都市甲府」の実現に向けた普及啓発の充実
- ② 女性の活躍推進に向けた学習交流、ネットワークづくりの拠点となる施設の機能強化
- ③ 広報の工夫による、甲府市女性活躍支援サイト「なでしこPlus」の認知度向上
- ④ 市民の視点に立った印刷物の作成や窓口でのサービス向上
- ⑤ 企業や市民等との連携による「健康都市甲府」実現に向けた市民意識の向上
- ⑥ 民間活力の積極的活用や時代に合わせた内容によるキャリア教育の充実
- ⑦ 起業当事者（希望者）の声や意見を踏まえた、情報提供等の充実
- ⑧ 企業や団体等との連携による「働き方改革推進都市甲府」実現に向けた体制の強化
- ⑨ 子育て支援人材の質の向上と活動の活発化
- ⑩ 地域社会における女性の活動に向けた取り組みの強化

令和元年度の課題

- SDGsを用いた男女共同参画の普及啓発
- 市民のニーズに合ったサービスの提供
- 健康増進に向けた啓発事業等の開催
- 将来、離職の防止となるようなキャリア教育の実施
- 課題が多い起業の内容に対応したセミナー開催
- **市を挙げての働き方改革の取り組み**
- 子育て支援者のスキルアップ支援
- **地域活動や地域産業に、女性の活躍の場を増やす**

令和2年度のラウンジイメージ



活動の記録

○令和2年8月4日（火）

- ・令和元年度 活動報告書の提出
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期となっていた令和元年度、活動報告書の提出を行った。

- ・令和2年度 委嘱状交付式

令和元年7月1日に策定された「こうふまちづくりラウンジ設置要綱」に基づき、今年度もラウンジを設置し、甲府市長から委員10名に委嘱状を交付した。

- ・第1回「こうふまちづくりラウンジ」開催
 - (1) 新・旧委員自己紹介
 - (2) 委員長及び副委員長の選出
 - (3) こうふまちづくりラウンジについて説明
 - (4) 女性の活躍促進にかかる概要についての説明
 - (5) 新・旧委員によるフリートーク
 - (6) その他

○令和2年9月29日（火）

- ・第2回「こうふまちづくりラウンジ」開催
 - (1) テーマについての意見交換
「時間も方法も自由に選べる働き方で、家事も仕事も両立しやすい環境へ」
 - (2) 報告書の作成様式（案）について
 - (3) その他

○令和2年11月30日（月）

- ・第3回「こうふまちづくりラウンジ」開催
 - (1) テーマについての意見交換
「地域で活躍する女性を増やそう」
 - (2) その他

○令和3年3月19日（金）

- ・第4回「こうふまちづくりラウンジ」開催
 - (1) 市長への活動報告書の提出
 - (2) 提案説明と意見交換
 - (3) その他

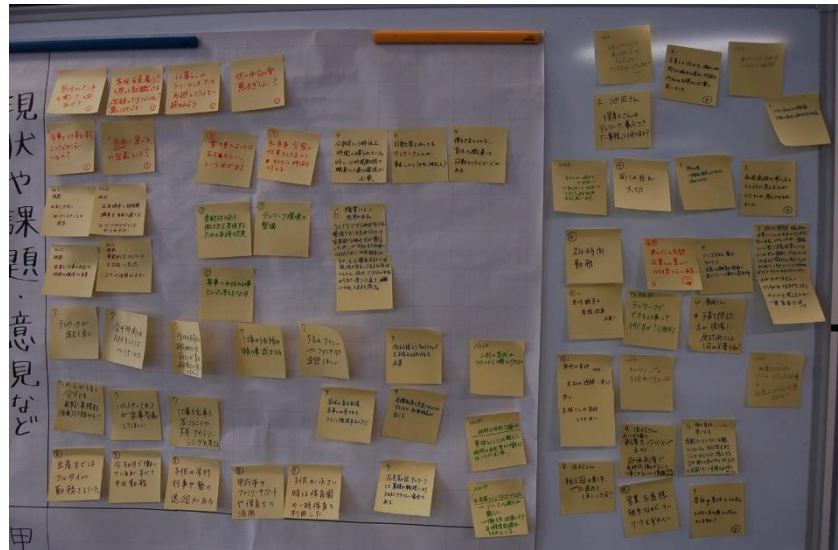
活動の様子



第1回



第2回



意見交換の様子



第3回

令和2年度のテーマ

1 「自由に選べる働き方」

～時間も方法も自由に選べる働き方で、家事も仕事も両立しやすい環境へ～

【現状と課題】

- 多様な働き方を実現するためには、各種制度への理解や職場の支援体制の見直しが必要であるが、ワーク・ライフ・バランスの推進について、何から手をつけてよいのか分からない現状がある。
- 産休・育休をはじめとする、家庭と仕事の両立支援に関する各種制度の整備が進んでいても、制度利用に対して周りの理解を得る事が難しく、利用格差が生じていることも事実である。
- 根本的な人員不足も制度の遅れや制度利用低下の原因となっている。
- 家事と仕事の両立は、時間の確保が課題である。
- 業務の効率化（行政手続きも多い）について考え、無駄はないのか見直すことが必要である。

【提案内容】

- No. 1 多様な働き方の実現
- No. 2 育児休暇等の取得の促進など
- No. 3 職場における女性活躍推進の格差
- No. 4 両立支援制度等の利用格差
- No. 5 柔軟な働き方への促進
- No. 6 行政手続きの簡素化

提案

No. 1

多様な働き方の実現

多様な働き方を実現するためには、職場の現状に則した様々な制度や支援体制を整備することが必要

職場の理解と企業の努力だけでなく、行政支援も必要であると考ええる。企業に働き方のアンケートやモニタリングを行ったり、企業のトップや雇用担当者に向けた情報共有の場を設けたりして欲しい。

具体的・効果的な取り組みについて、ホームページ等を利用した情報の発信に努めるとともに、情報を共有できる仕組みがあると効果的である。

提案

No. 2

育児休暇等の取得の促進など

男性の育児休暇・育児休業等が積極的に取得されることで、職場環境における男女共同参画意識の醸成が図られ、ひいては女性の活躍推進に繋がるのではないかと。

行政が率先して、ロールモデルとなる、男性の育児休暇等の取得に取り組んでいただきたい。

育児休暇等の対象者を親だけでなく、祖父母も取得できるように拡大してほしい。

提案

No. 3

職場における女性活躍推進の格差

職場環境における女性活躍推進の弊害となっているのは、上層部ではないか。上層部の意識改革にあわせ、組織トップが方針を示すことも必要

男性が配属されることが多かった職場へ、積極的に女性を配属し、男女均等の職場体制を作ることは必須である。

長時間勤務をしないと評価しないという意識に問題があり、短時間勤務者への評価意識が変われば、短時間勤務を行っている女性も活躍できる。

提案

No. 4

両立支援制度等の利用格差

様々な制度ができてても利用できない現状である要因は、根本的な人手不足が挙げられる。

育児時間利用者等の短時間勤務者と通常の勤務者との間で、誰もが生きがいをもって取り組める、モチベーションの下がらない職場づくりを目指すことが必要である。

1時間当たりの業務量を考慮し、業務を分担する際は、「人」ではなく「チーム（複数人）」として対応させる。

提案

No. 5

柔軟な働き方への促進

育児・介護に対する仕事との両立支援のみでなく、独身者への配慮も必要である。性別・単身・子どもがいない等関係なく、働く全ての人が柔軟性のある働き方を実現できるような環境になってほしい。

独身者へのキャリアアップ支援や、育児・介護に限らないプライベート休暇の取得促進によるワーク・ライフ・バランスが必要

正規職員と短時間職員を自由に選択できる制度や分断勤務の導入

提案

No. 6

行政手続きの簡素化

仕事が休みの日に行政窓口で手続きを行う際、手続き内容が多いため1日がかかりになってしまい、休日がなくなることがしばしばある。

窓口業務を取捨選択する機会があれば、手続き等が簡素化されると思われる。

行政の手続きに印鑑の廃止は当たり前であると感じる。オンライン窓口は導入されているのか。

個人番号カードを利用して、このカードのみで全ての行政手続きを自宅から行えるようにしてほしい。

期待できること

制度の利用格差を減らし、また両立支援だけでなく独身者等へのキャリアアップ支援を行うことに伴うモチベーションの下がらない、職場づくりができる。

職場環境が整備され、年齢・性別問わず意識が変わることで、誰もが柔軟な働き方を享受でき、ワーク・ライフ・バランスを実感することができる社会の実現に繋がる。

令和2年度のテーマ

2 「地域社会を女性が変える」

～地域で活躍する女性を増やそう～

【現状と課題】

- 自治会等の地域活動においては、男性が多く、同じ人が携わっている。
- 自治会の役員は、男女均等に携わることが望ましいが、女性は引き受けてくれる方が少ない。
- 自治会によっては、女性が活躍しているところもある。
- 自治会の役割・必要性や何が地域貢献に繋がるのかが分からない。
- 役員や年齢等関係なく、各人の趣味や特技をいかし活躍できるイベントを行っている自治会もある。
- 自治会で活動することにより、近隣の知り合いが増え、子どもにとっても良い環境になる。

【提案内容】

- No. 7 地域での活躍について
- No. 8 地域活動への関わり
- No. 9 転入者等への地域としての関わり方
- No. 10 ホームページ等の情報発信について

提案

No. 7

地域での活躍について

仕事も地域の活動も、男女それぞれでしか気付かず、できないことがある。男女どちらの視点も重要であり、普段から地域内で男女一緒に活動に取り組む体制が大切である。

サークルの様に活動できれば、参加したいと思う。

地域で活躍するロールモデルとなるような女性が必要であり、SNSを充実させ情報発信することで、多くの女性が興味を持ち、地域の活性化に繋がるのでは。

女性が活躍している地域をモデル地区として、公表してはどうか。

提案

No. 8

地域活動への関わり

学校教育の中でも、地域貢献について学ぶ機会を作る。

消防士等、地域貢献に繋がる女性が活躍できる職種についての情報を発信することで、子ども達が目指す職業の枠が広がる。

学童保育や介護サポート体制が地域ぐるみで出来ると良いが、信頼性が重要なため、行政に入って欲しい。

提案

No. 9

転入者等への地域としての関わり方

地域の住民と交流を持ちたいが、情報が不足していることから手段が見つからず、とまどっている。男女関わらず交流できる機会を知るためには、どうすれば良いのか。

地域に寄与する意思はあるが、きっかけがない。情報が乏しい。

自治会と関りが無い場合、情報が入ってこない。SNSを利用して、地域の住民全員が情報共有できる仕組みはないか。

提案

No. 10

ホームページ等の情報発信について

甲府市や地域の情報が、十分に市民へ届いていない。広報誌やホームページだけでなく、他の手段や機会を利用して情報発信ができないか。

地域の情報を得るなかで、甲府市のホームページを充実させてほしい。

ホームページを検索しやすい形にしてほしい。現代はネット社会のため、甲府市を身近に感じられれば、地域ももっと身近に感じられる。

期待できること

若い世代が、地域活動の取り組みを学び理解することで、将来、地域への積極的な参加が望まれる。

地域の活動についてネットの情報共有を活かすとともに、参加しやすい雰囲気をつくることで、甲府市や地域を身近に感じられる環境が作られ、さらなる住民同士の交流や活性化が望まれる。

参加委員の感想

石原初江委員長

女性だけの会議！？こんな楽しい会議でいいのかしら？と思いながら参加しました。そこでは楽しいだけでなく私には学ぶことが沢山ありました。

同じ質問にもいろいろな考え方があり、自分が今まで思いもつかなかった考えに驚くこともしばしばありました。「もう、世のため人のためには働かない！」と心に誓った私のお尻をペンペンたたかれたようでした（笑）

このラウンジに参加している皆さん、特に若い方々がいろいろと考えている姿を見て『まだまだ捨てたもんじゃない！』と嬉しくなりました。

男女問わずこの甲府に住んでいる皆が小さなことでもよいので輝く事ができれば、いつかは大きな輝きになるのではないのでしょうか。

みんなが輝ける甲府に期待します。

小林和美副委員長

令和2年度は第2回目ということで、前年に引き続き、委員を務めさせていただきました。

今年は特に「新しい働き方」を模索せざるを得ない年でしたが、今回ご一緒させていただいた委員長はじめ委員の皆さんも、昨年の皆さん同様、各方面でご活躍する方々なだけあり、たくさんの知識、アイデア、そして個性をお持ちで、昨年と同じ議題についても視点や論点が全く異なること、そして一つの意見に誘発されて、皆さんそれぞれの立場からの意見が交わされ、新しいアイデアにつながる予感を秘めていること。昨年度に引き続き女性ならではの自由さと感性の瑞々しさを再確認できました。

このような貴重な機会を与えてくださり本当に感謝いたします。

五十嵐友美委員

こうふまちづくりラウンジに参加させていただき、様々な環境で忸怩たる思いを抱える女性が多くいることを知りました。

業界や立場によってその課題は複雑で、一朝一夕には解決しないものですが、その一方で、常識や前例にとらわれずに取り組むことで見える道もたくさんあるのではないかとも思いました。「女性」という括りで課題をとらえようとするところから脱却しなければいけないのかもしれないかもしれません。

人の価値観は簡単には変えられませんが、コロナ禍で生活スタイルが変わった今はチャンスでもあります。このような転機となる時期に、こうふまちづくりラウンジに参加させていただいたことに感謝申し上げます。

池田朱里委員

2018年度に、私自身が甲府市女性活躍推進チャレンジ女性として、職場が甲府市女性活躍推進優良事業者として表彰して頂いたことをきっかけに「こうふまちづくりラウンジ」へ参加させて頂きました。

様々な職種や年代の方がいらして、一人ひとりの貴重なご意見を聞き、そこから学びを得ることがとても多く、充実した集まりでした。

地域に目を向けることは、正直今まであまりありませんでしたが、甲府市がより良いまちになると良いな、どうしたらできるのだろうかと思うようになりました。

また、“活躍”は、大きな成果を生むだけでなく、誰でもどんな些細な事でもその人が輝いていれば活躍なのだと改めて気づかされました。

これからも住んでいるまち甲府を大切にしていきたいです。

長田篤美委員

このラウンジに参加し、女性が少ない職場の中で、自分自身が無意識のうちに「男性だから...」「女性だから...」と考えていたことに気づき、まずはこの考え方自体を変えなければと感じるようになりました。もちろん、性別により生まれ持った違いがあることは当たり前で、各々の良さを発揮できることは良いことです。それを含めて「男性だから...」「女性だから...」という言葉は今後減らすために、職場の制度改革や環境づくり、また、職員の意識改革を進め、圏域住民により良いサービスを提供していきたいと考えています。

短い時間でしたが、様々な立場や分野の方の意見を聞く中で、視野を広げることができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。

笠原 萌委員

この度「こうふまちづくりラウンジ」に参加し、様々な分野で活躍されている方々と自由な意見交換を行えたことで、普段の生活では得られない気づきを得ることができました。

社内の異動を機に甲府市在住となった私としては、フラットな立場で会話ができるコミュニティがなかったので、このような機会をいただけたことに感謝しております。

皆様との意見交換の中で、自社の各種制度が充実していることを再認識でき、多様な働き方を浸透していくための事例として、もっとアピールする必要があると感じています。

「女性が活躍するまち」と明言しなくても良いくらいに、女性活躍が当たり前な社会が甲府市で実現されることを期待し、自分自身にできることで少しでも貢献していきたいと思っております。

河野朱李委員

最も刺激的だったことは、自分とは違う立場で活躍している方々のリアルな意見に触れられたことです。

職場や周囲からは、同じ教育を受け、また似た者同士が集まるからか、新しい発見を得られる機会はそんなにありません。

しかし今回まちづくりラウンジでは、普通に生活していたら会うことのないような職種、立場の方々と議論をすることができ、その職業ならではの意見にたくさん出会えたのが貴重でした。

特に、私は組織で働いているためか、独立して働いている方の意見は、自分にはない発想の新鮮なものばかりで、大きな刺激を受けました。

仕事で参考にしたいと感じる意見が多く、有意義な経験となりました。

高木真純委員

この度は「こうふまちづくりラウンジ」に参加させて頂き、各分野で活躍している委員の皆様と意見交換することができました。とても刺激になり貴重な体験でした。

私は主に育児中の女性を対象とした健康教室に関わる仕事をしていますが、今後に向けて対象を広げること、また周知の方法を増やすなど、参考になる意見をたくさん聞くことができました。

1人1人が支え合い、住みやすい地域づくりにこれからも協力できればと思います。

ありがとうございました。

田村友見子委員

この度は「こうふまちづくりラウンジ」に参加させて頂き、様々な分野で活躍されている皆様と交流の機会を持てたことは、大変貴重な経験となりました。

甲府市は私自身が生まれ育った町であり、現在、地元の金融機関で働く立場としても、地域活性化への取組みは重要な課題と認識しています。今回委員の皆様との意見交換から、家庭や地域社会の基盤を支える女性達の力強さを実感しました。

この一年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、私たちの生活や社会全体が目まぐるしく変化しました。豊かな生活を確保し住みよいまちづくりの実現を目指すには、女性の視点による地域参画は欠かせないものと考えます。

今後もこの活動が、甲府市の持続的な発展に繋がる一歩となることを期待しています。

山本珠美委員

「楽しくなんでもどんどん言いたいこと言いましょう！」石原委員長の素敵なお言葉でこうふまちづくりラウンジがはじまりました。

参加されたみなさまは、職業や立場、バックボーンが違う多種多様な方々でした。「これは今まで気が付かなかった意見が聞けるかな」とわくわくしたのを覚えています。素敵なお言葉でスタートしたミーティングは、文字通り楽しく前向きな意見がたくさん出たと思います。

その意見は、甲府を魅力ある街にしようという愛あるものだと感じました。次のステップは意見を具体化し、よいまちづくり実現のための「行動」です。行政や企業のみなさまには、横のつながりを強化しつつ、スピードのある対応をぜひお願いいたします。

とても大変な状況に直面しています。このような時だからこそ、人の想いやつながりが大切な尊いものであるということを、このミーティングが教えてくれました。ありがとうございました。

今後もラウンジのメンバーだけでなく、情報のネットワークを拡大し、女性の活躍及び甲府市のまちづくりについて、考えてまいります。



- ▶ 令和2年度
- ▶ 「こうふまちづくりラウンジ」委員
- ▶ ・石原初江 (委員長)
- ▶ ・小林和美 (副委員長)
- ▶ ・五十嵐友美
- ▶ ・池田朱里
- ▶ ・長田篤美
- ▶ ・笠原萌
- ▶ ・河野朱李
- ▶ ・高木真純
- ▶ ・田村友見子
- ▶ ・山本珠美